Yaita vol.1174 広報やいた 2024 年 10 月号

CONTENTS　目次

2　特集　24 歳のつどい
6　地域とトモニ
8　地域おこし通信・ヤイタゴハン　ほか
10　子育てひろば・図書館へ GO ！　ほか
12　はつらつ通信
14　今月のニュース＆トピックス
15　市からのお知らせ
28　クイズ＆アンケート・編集後記

COVER　表紙の写真

表紙の写真は、たくさん思い出を残してもらえるよう、24 歳のつどいの会場に設置されたフォトブースの様子です。中学生時代の懐かしいメンバーで集まって記念撮影。久しぶりの再会を喜び、会話を楽しむ皆さんの笑顔がすてきでした。

POPULATION　人口（9 月 1 日現在）

30,274 人	（△37）	出生	6 人
男 15,080 人	（△28）	死亡	22 人
女 15,194 人	（△ 9）	転入	51 人
13,406 世帯	（△13）	転出	72 人

（ ）内は 8 月 1 日との比較　※住民基本台帳をもとに算出
△は減

特集

24歳のつどい

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るった 2020 年、収束の見通しが立たず、20 歳の門出を祝う成人式が中止となりました。

「あの時 20 歳だった皆さんのために、もう一度矢板市で集まる機会を作りたい」

そんな思いから今年 8 月、初めての試みとして「24 歳のつどい」を開催しました。58 ロハスクラブにご協力いただき、立食パーティー形式で開催した今回、会場には先生方なども含め 62 人が集い、再会の喜びを分かち合いました。

司会　藤田 真奈さん
（やいた応援大使）

市が手作りしたウェルカムボードと、記念写真を撮ってくれました

お世話になった恩師と、あの頃の思い出話で盛り上がりました

クイズ大会や抽選会では、たくさんの方がおみやげをゲット！

乾杯のあいさつは、元成人式実行委員の赤川さんから

市長も 24 歳の皆さんと交流を深めました

台風の影響が心配されていましたが、無事開催できてうれしいです。記念写真のタイミングで晴れ間が見えたときは感動しました

県外から久しぶりに帰ってきました。クイズ大会で矢板市の知らなかったところ・いいところを再発見できたので、また遊びに来たいです

久しぶりに会うみんなの雰囲気が変わっていて、少し緊張していましたが、話し始めると中学生時代に戻ったようで懐かしかったです

成人式実行委員をしていたので、成人式が開催できず残念だった分、今回同級生や恩師に再会することができ、感慨深いものがありました

クイズ大会では、市に関わる問題などを出題し、抽選会では、協賛いただいた企業の商品をプレゼントするなど、「ふるさと矢板」の魅力を再発見してもらいたいと思い、地元企業の PR もさせていただきました。

市外・県外からの参加者も多かったのですが、私たちとしては、若い世代の方に「矢板市に帰ってきてほしい」というのが本音です。ただ、市の都合だけで「帰ってきて」とお願いするのは本望ではありません。

皆さんには、「それぞれの人生を、それぞれの場所で、自分らしく、めいっぱいチャレンジしてほしい。そして帰ってきたくなったら、いつでも帰ってきてほしい」と思っています。

皆さんの「ふるさと矢板」が、自慢できるふるさとであるために。これからも私たちは、魅力的で愛のあるまちづくりを市民の皆さんと続けていきます。

Special Thanks

会場提供／58 ロハスクラブ
司会／やいた応援大使 藤田 真奈さん
協力事業所／（株）壱番屋、（株）壮関、（株）山久
東色ピグメント（株）、（株）浜屋組

地域（チイキ）とトモニ

緩やかに結び直そう。「地域のつながり」

1986 年頃、地域の半分の世帯には子どもがいて、学校と地域と家庭が連携して子どもたちを見守ることが当たり前のコミュニティがありました。しかし少子高齢化が進んだ近年、子育て世帯は減少し、矢板市では全体の約80％が、子どもと関わりのない世帯となり、地域と子育ての関係は自然消滅的に薄れてしまいました。これを受け矢板市では、地域・学校・家庭が再びつながり、今の時代に合った「地域とともにある学校づくり」を目指して、各学校に働きかけています。

現在全ての市立小中学校には、学校運営協議会が設置され、地域の声を聴きながら、保護者や地域が、「無理なく」「楽しく」関われる機会を模索しているところです。

学校運営協議会って 何？

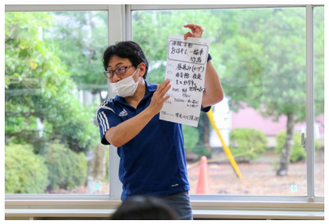
学校の運営について、学校と地域が目標を共有し、「よりよい学校」「よりよい地域」にするため、さまざまなことを話し合う組織。学校長をはじめとする教職員と保護者、地域の方で構成されています。

子どもたちのために、私たちができること。

学校運営協議会では、教職員・保護者・地域の方が困っていること・やりたいことなど、思っている本音をぶつけ合い、どんな課題があるのかを共有します。

教職員の仕事量の増加、保護者世代の学校活動への参画の減少、地域の担い手不足。その原因は？解決するためには？必要とされていることは？

熟議を重ねることで、たくさんの課題や可能性を共有し、「やるべきこと」「やりたいこと」「できること」を見出します。



できることからはじめよう。つながって、学び合おう。

「子どもたちのために」そんな思いから企画した活動では、学校・参加者・子どもたち、それぞれにたくさんの気づきや学びがあり、有意義な時間になっているようです。

「できることから」「できる時間で」「できる分だけ」。

各学校の地域活動は、少しずつつながりを広げながら、ゆっくりと前に進んでいます。

●野菜の種まき・苗植え体験 @乙畑小

【みなさんの声】

- 子どもたちにとって良い経験ですが、教員だけでは畑の管理や準備に手が回りません。大変感謝しています。（学校）
- 大根の種がすごく小さいことがわかった。（子ども）
- この体験を通じて農家や食べ物への感謝の気持ちが芽生えるとうれしいですね。（地域）

●保護者による本の読み聞かせ活動 @矢板小

【みなさんの声】

- 初めて参加して緊張しました。次はもっと上手にできるようがんばります。（保護者）
- 何の本をどんなふうに読むか、準備している時間も意外と楽しいんですよ。（保護者）
- おもしろかった。またやってほしい。（子ども）
- 特別感のある休み時間となり、子どもたちのいい表情を見ることができました。（学校）

●校外学習の見守り @片岡小

【みなさんの声】

- 授業参観では見ることができない子どもの姿が見れて新鮮でした。参加してよかったです。（保護者）
- 子どもと話すと元気がもらえてうれしい。（地域）
- スーパーの中にいろいろな工夫があり、私も勉強になりました。（保護者）

「うちの子はもう卒業したから」そう言っていた方が、活動に参加したら楽しくて、「新たな居場所」になったという話を伺いました。

大人も子どもも、みんなが楽しみながら学び合い、つながっていければ ――― 。

今後も矢板市では、そんな緩やかなつながりのきっかけ作りを続けていきます。

私たちとつながり、一緒に活動していただける方がいましたら、ぜひお近くの小中学校、または生涯学習課までお問い合わせください。

問い合わせ／
生涯学習課　☎（43）6218